

「浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学法学部 1年・福井悠大

私にとって今回の浙江大学スプリングスクールはとても有意義なものでした。プログラムの内容としては、平日は基本的に午前中に中国語の授業があり、午後は自由行動ないしは、企業見学、博物館訪問など、中国の文化を知る機会を設けさせてもらい、中国文化に対する理解がとても深まりました。休日は、上海や蘇州といった、中国を代表する観光地に出かけ、中国の持つスケールの大きさに圧倒されることがとても多かったです。また、現地の学生ボランティアの方々には無効で生活をするうえで大変お世話になりました。休日の観光や様々な場面で、中国語をまともに話すことも出来ず、中国国内での常識に欠ける私たちを助けていただきました。またさまざまな場面で奇策に声をかけてくださり、とても楽しい時間を過ごすことができました。またこのプログラムを通して、多くの先輩、友人と知り合うことができたということも大きな財産だと思っています。異国の地で2週間という長い期間をともに過ごすということは日本では当然体験できるものではなく、そこから多くの学びがありました。またその友人は京都大学の人間とは限らず、今回同じプログラムに参加されていた東京大学の方、静岡県立大学の方とも友好関係を築くことができたと言うのも素晴らしい体験でした。

そして今回の短期留学で最も印象に残ったことは、やはり中国という国の広大さです。例えば、高速電車を扱うターミナルは日本の空港波に巨大で、大学は自分が想像していた以上に大きく、中国という国が日本とは全く違うスケールであるということに再認識させられました。また日本よりはるかにネット社会であるということも、自分の想像を超えているほどに衝撃的でした。私は中学に行く前、中国という国が日本より進んだ社会であるとは考えていませんでした。しかし、今回のプログラムを通し、中国という国がいかに時代の先端に行く国であるかを認識しました。今回の短期留学が終了したとき、私は日本という国がこの先世界の中心からさらに遠ざかってしまうのではないかという不安を感じ、将来さらにグローバル化が進む国際社会において日本はどのようにふるまっていべきなのかについて深く考えさせられました。それと同時に自分の中に一種のナショナリズムのようなものが芽生えたことも自覚しました。

今回の短期留学を通し、様々な体験をさせていただくことができ、将来につながる貴重な財産を得ることができ、また同時に色あせない素晴らしい思い出の数々を得ることができました。今回の短期留学に携わったすべての関係者の方々に感謝の意を表したいと思います。ありがとうございました。